

# 外国人クラブ100年史翻訳



神戸の居留外国人がつくったスポーツクラブ「神戸レガッタ・アンド・アスレチック・クラブ」(KR&AC) 100年史の翻訳を、県立芦屋高校教諭の高木広光さん(58)＝写真、西宮市高木東町＝らが完成させた。機関誌「居留地の窓から」に掲載している。

自ら30年近く指導してきたラグビーも、関西でのルーツを探ると、1870年創立のKR&ACにたどり着く。西日本のほとんどの近代スポーツの発祥が詰まっている。単なる郷土史を超えた面白さがあった。研究活動の背景に、かつての姿を失ってゆく震災後の神戸への危機感がある。ハイカラでおしゃれとされる街の特色に、「スポーツ」を加えるのが願いだ。「それが、本来の神戸なんです」

# ひと... 模様



## 新聞をまとい「歩く作品」に

西宮市出身で、大阪市大正区に住む西沢美幸さん(36)＝写真＝は、「新聞女」と呼ばれる現代芸術家だ。大阪や兵庫、奈良の街角に週1回ほど現れては、新聞紙でつくった服を着て歩くパフォーマンスを続けている。

結婚して大阪に転居した直後、阪神大震災が起きた。「実家にいたら死んでいたかも。やりたい現代芸術を今やらなければ」と思った。4年前に12年間勤めた衣料品メーカーを辞めて、自ら「歩く作品」になった。

今月7日には新西宮ヨットハーバーで、クレーンに宙づりになり、1カ月分の新聞紙をつなぎ合わせた服をまとって舞った。「見た人が思わず笑顔になる。それがうれしい。笑顔をもっと生み出して、世界中の人を幸せにしたい」

## 妻と二人三脚 印染で受賞



大漁旗や節句のぼりなど、**印染**と呼ばれる染め物業を営む浜坂町浜坂の西垣一夫さん(72)＝写真＝が、県芸術文化協会の今年度の「ふるさと文化賞」に選ばれた。2代目として文化伝承の貢献が評価された。

印染は工程が多く、一つひとつが手作業。デザイン、色彩に工夫を凝らす。捺染に比べて価格が高くなるものの、細かな模様が表現できるので落ち着きがあり、風合いにも優れている。

地域の子どもたちを対象に染め物体験教室を開き、地域文化の大切さを教えている。作業はいつも妻との二人三脚。「色づくりは何年やつても難しい。手伝ってくれた妻がいてこそその受賞です。これからも、喜んでもらえるモノづくりに励みたい」と語る。

## 起業精神で神戸を元気に



神戸市中央区の教育コンサルティング会社「SORA」を経営する角本紗織さん(26)＝写真＝は、市内では数少ない女性の若手起業家。生まれ育った神戸を「ベンチャー精神で元気にすることが目標だ」。

大学時代、就職活動を支援するイベントに携わった時に、起業家らと出会って刺激を受けた。卒業後に入った人材派遣会社は2年で退社。昨年5月、独立のために用意していた貯金を資本金に充て、会社を設立した。

主に企業の人材育成や会社案内冊子のデザインを手がける。新たに、県内の企業や大学の動画情報をネット上でデータベース化して提供するシステムを考案。提携企業を募っている。「若い感性で、どんどん新サービスをつくっていききたい」

## 今津氏が再選

淡路町長選

淡路町長選は21日投票され、即日開票の結果、前職で無所属の今津浩氏(65)＝写真＝が、新顔で無所属の元町議、戸田雄士氏(46)を破り、再選を果たした。当日有権者数は5752人。投票率は86・42%(前回83・16%)だった。



淡路町長選は今回、公

## 開票結果

当 2435 今津 浩 無前

2409 戸田 雄士 無新

＝確定得票

**先輩塾生が証明!**  
「本当の実力」をつけるなら木村!

あすのよみ  
23日(火)  
日曜新聞

選法の90日選(定数12選挙)になっ指した今津で任期が切総務課長がていた。

桜の動物園へ行  
夜桜

情報の提供を訴える章苅トシエさん＝阪急塚口駅前

尼遣

たのかを尋ねたい」と話した。

準備した中川俊一さん＝東京都内のホテルで

「来年、予選からやり直します」と笑顔を見せた。

中川選手は、淡路仁茂九段＝西宮市在住＝に師事し、プロ棋士養成機関「奨励会」でプロ寸前の三段まで昇った。6月に開幕する第23回朝日オーブン将棋選手権でアマ代